

としょかんだより 2月 号

今月は節分にバレンタインデー、そして6年生を送る会と大忙し！
学年最後の月をむかえるまえに、やりのこしがないよう過ごしましょうね。

きせつのおはなし

● 「サンタクロースが二月にやってきた」 今江祥智：文、あべ弘士：絵、文研出版 1・2年～

冬になったどうぶつえんのすみっこ。あたかいお部屋でライオンのかぞくがお話をしていると、ドッシンガラガラ！ 大きな音がします。なんとそこには、サンタさんが立っていました。

● 「すみ鬼にげた」 岩城範枝：作、松村公嗣：絵、福音館書店 3・4年～

ヤスは父のあとを継ぐために、大工見習いとして奈良の唐招提寺にやってきました。すると、静かなお堂から「うおーんうおーん」と泣く声がします。

● 「魔法使いのチョコレート・ケーキ」 マーガレット・マーヒー：作、シャーリー・ヒューズ：画、石井桃子：訳、福音館書店 5・6年～

魔法使いのおじいさんは、魔法の腕はいまいちでしたが、チョコレート・ケーキ作りはとてもよい腕をしていました。ですが、それを食べてくれる友達はいません。そこで……？

保健室と図書館からのおしらせ

じつは、生馬小学校図書館の本は、保健室にもおいています。

保健室には、からだのことや心のことにつかわる本や図鑑、クイズをおいています。

そのなかに、つぎのような絵本があることを知っていますか？



やさしいことばで語る、プライベートゾーンの絵本です。

自分はさわってもいいけど、ほかの人にはさわらせてはいけないところ。それは人によって同じところもあれば、そうでないところもあります。

体だけじゃなくて、心もそうですね。
思いやりをもって。相手の気持ちも考えて。

これはとても大事なことですが、実践はなかなか難しいことです。残念なことに、大人でもできない人はいます。
みなさんはどうですか？

(↑画像『うみとりくのからだのはなし』遠見才希子 作／佐々木一澄 絵、童心社)

※) この表紙画像は出版社の掲載可否と表記条件を確認したうえで、掲載をしています。

ほかに、体や心のことについて、こんな本もあります。

- ・『だいじだいじどーこだ』遠見才希子：作、川原瑞丸：絵、大泉書店
- ・『じぶんのからだはどんなからだ?』田代美江子：監修、金の星社
- ・『すきっていわなきや、だめ?』辻村深月：作、今日マチ子：絵、岩崎書店

さらに、心のことや多様性についての本は生馬小学校図書館にも
おいてあります。たとえば右のような本も。

人種も貧富の差もごちゃやまぜの元底辺中学校に通い始めたぼく。
まるで世界の縮図のようなこの学校では、いろいろあってあたり前。

また、こんな本はある？ こういうことを調べるには？
こまったことがあれば、先生や図書館で聞いてみてくださいね。



(→画像。ブレイディみかこ『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』、新潮社文庫刊)

※) この表紙画像は出版社の掲載可否と表記条件を確認したうえで、掲載をしています。

◆あたらしくはいった本リスト◆ 卒業生向けの本が中心に入りました！

！「本の名まえ」書いた人、出版社、の順番で紹介します！（縦の並びはNDC別です）

- 「のび太」という生きかた 横山泰行/著、アスコム
「毎週1話、読めば心がシャキッとする13歳からの教科書」藤尾秀昭/監修、致知出版社
「失敗図鑑 すごい人ほどダメだった」大野正人/著、文響社
「写真集 海を旅する」寺本英仁/写真、ブックマン社
「イメージセンサーのひみつ」藤みき生/まんが、Gakken
「ウレタンのひみつ」海野そら太/まんが、Gakken
「13歳からのアート思考」末永幸歩/著、ダイヤモンド社
「博士の愛した数式」小川洋子/著、新潮社
「ソバニイルヨ」喜多川泰/著、幻冬舎
「透明なルール」佐藤いつ子/著、KADOKAWA
「オーボラーラ男爵の大冒険」原京子/文、ポプラ社
「風が強く吹いている」三浦しをん/著、新潮社
「舟を編む」三浦しをん/著、光文社
「命のスケッチブック」中谷加代子、小手鞠るい/文、静山社

さがしてみよう！

